

# J A 自己改革推進レポートについて

令和 2 年 1 月 2 4 日  
J A 鳥 取 県 中 央 会

## 1. J A 自己改革実践状況

### (1) J A 鳥取いなばの取り組み

#### ① 愛菜館で歳末ふれあい感謝祭

J A 鳥取いなば愛菜館運営協議会は 12 月 21 日、「歳末ふれあい大感謝祭」を鳥取市の J A グリーン千代水店敷地内で開催し、来場者にぜんざい 1,000 杯、カニ汁 200 杯を振る舞った。店頭には長蛇の列ができ、賑わった。



#### ② 子ども農業教室閉校式

J A 鳥取いなばは 12 月 14 日、J A 本店で 2019 度「子ども農業教室」の最後の講座として白ネギ収穫体験をし、閉校式を開いた。地域農業に触れ「食・農」の素晴らしさや大切さを学んだ受講生 30 人に修了証を授与した。



#### ③ 女性会鳥取支部が歳末チャリティー餅つき

J A 鳥取いなば女性会鳥取支部は 12 月 21 日、鳥取市のトスク本店の店頭広場で「歳末チャリティー餅つき」を開いた。これは鳥取県女性会の統一行動「米ひと握り運動」の一環として毎年行うものである。米ひと握り分の代わりに会員から一人 100 円の寄付を募り、餅つき用のもち米 90 ㌔を準備した。ついた餅で白餅やヨモギ餅の 10 個入りパック (約 180 パック) やぜんざいを作り販売した。

つきたてのお餅を買い求める来店客が次々に立ち寄り、餅は開始 1 時間 30 分で完売した。収益金は、市内の福祉施設に寄付する。



#### ④ 営農指導員育成強化プログラム 第1期職員が成果発表

J A鳥取いなばは1月8日、「営農指導員育成強化職員成果発表会」をJ A本店で行い、第1期職員17人が2年間の取り組みや成果を発表した。生産者と積極的にコミュニケーションをとり指導したことや、指導時間確保のため事務作業の効率化を図ったことなど2年間の取り組みを振り返った。



### (2) J A鳥取中央の取り組み

#### ① 「女性の集い」を開催！

12月12日、J A鳥取中央本所において「女性の集い」を開催し、女性会会員、J A役職員ら約80名が参加した。

女性の集いは、女性会会員がJ A役員に対し直接意見や要望を伝えることで、よりよいJ A事業運営を行っていくとともに、会員の相互交流を通してより活力ある女性会活動を行っていくことを目的としたもの。J A役員との意見交換では、J A事業に関して活発な意見交換が行われ有意義な集いとなった。



#### ② 組合員との意見交換を行う！

J A鳥取中央は、組合員との対話の充実を図るため、栗原組合長が12月20日、1月14日に意見交換を行った。

平成26年から3期オリジナル野菜友の会（中玉トマト）の部会長として活躍されている村岡高志さん、西瓜・中玉トマトを主体に農業を営む手島文平さん、琴浦ミニトマト生産者の高塚哲也さん、北海道出身で琴浦町に移住し西瓜・ミニトマトを栽培する笹浪享祐さんから、J Aに対する要望や現在の生産状況などについて聞き取りを行いながら、J Aとして出来る限りバックアップをしていく意向を伝えた。

J A役員による意見交換は、平成30年5月より実施しており、今後も継続して組合員との対話を増やし、J A施策に活かしていく。（平成30年度は30件、令和元年度は21件の意見交換を行った。）



### ③ 春高バレー出場の鳥取中央育英高等学校に特産品と共にエールを送る！

J A鳥取中央は、県立鳥取中央育英高等学校男子バレーボール部が全日本バレーボール高等学校選手権大会に出場することを受けて、12月23日に特産品と共にエールを送った。

地元にある高校はもとより“中央つながり”という意味を込めて、鳥取県産米オリジナル新品種「星空舞」10kg、長芋「ねばりっこ」10kg、とんかつ用豚肉10kg、J Aえひめ中央の特産品「伊予柑ゼリー」3箱を贈呈した。

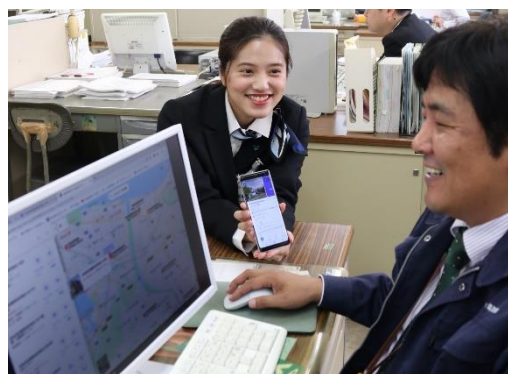


この特産品には、“星空に舞うがごとくボールを打ちまくり”、“粘り強くボールを拾い”、“とんかつを食べて勝つ”という意味を込めた。また、西日本豪雨の復興に向けて栽培に取り組む「伊予柑」を使ったゼリーで、食べて勝利をもぎとってほしいという意味も込めた。(J Aえひめ中央は、令和元年10月に協定を結んだ「J A中央サミット」の加盟J Aのうちの1つ) 栗原組合長は「J A役職員全員で応援している。鳥取県の名を全国に轟かせてほしい」とエールを送った。惜しくも鳥取県初の一回戦突破とはならなかったが、1月に開催された鳥取県高等学校バレーボール新人戦では、優勝を飾った。

### (3) J A鳥取西部の取り組み

#### ① 上位表示で来店増へ 全事業所をマップ登録

J A鳥取西部は、グーグルが提供する地図検索サービス「Google (グーグル) マップ」の検索で、J Aの施設が上位に表示されるよう、対策に力を入れている。管内160カ所の支所や事業所などを半年がかりで登録。関連する情報とリンクさせることで、見る人に関心を持たせ、来店機会の増加を目指す。



### (4) J A戦略型中核人材育成研修会修了レポート発表会 (J A鳥取県中央会)

J A鳥取県中央会とJ A岡山中央会は、1月16、17日の両日、岡山市でJ A戦略型中核人材育成研修会修了レポート発表会を開いた。21人がJ Aの抱える課題や解決策を発表し、2名の最優秀賞が選ばれた。鳥取県からは、「体制変更と『コーチングシステム』の構築～人材を『人財』にするために」と題した、J A鳥取西部の山根央二さんが最優秀賞に選ばれ、2月に東京で開かれる全国研究発表会に出場する。

## (5) 加工・業務用野菜の需要ニーズへの挑戦（JA全農とっとり）

食の簡便化・外部化を背景に加工・業務用需要が増加する中、冷凍ブロッコリーの輸入量も年々増加している。国内生産拡大に向けて輸入品の国産転換を図るべく、鳥取県においても県主要品目であるブロッコリーの冷凍加工の取り組みを進めている。

県本部では、生産から加工まで一貫体制をもつ(有)ワールドファームをパートナー企業とし、平成30年度より取り組みを開始、今年度も11月上旬より収穫作業を行っている。



### 【(有)ワールドファームとの連携による加工・業務用野菜取組実績・計画】

	H30 年度実績	R 元年度見込	R2 年度計画
数量 (トン)	8.5 トン	26.0 トン	150.0 トン

## (6) JA直売所キャラバン開催（JA鳥取信連）

令和元年12月7日（土）、『JA直売所キャラバン』がJAグループ鳥取 地場産プラザ「わったいな」にて開催された。

このイベントはJAバンクとNHKが連携し、平成28年度から全都道府県を対象に実施しているイベントであり、本県は38会場目の開催となった。

当日クッキングステージでは、NHK「きょうの料理」をはじめ、多くの料理番組で活躍されている料理研究家きじまりゅうた氏を招き、旬の大山ブロッコリーなどを使用したレシピなどの調理を実演いただき、参加者にその試食を提供した。参加者は午前と午後の計2回のステージにてそれぞれ約100名が集まった。

クッキングステージ後のスペシャルトークステージでは、JA鳥取西部ブロッコリー部会の生産者含む4名による対談が行われた。話題は生産者の作付面積や営農の実態などを中心に進み、参加者は日常当たり前に購入する農産物が消費者に届くまでの生産者の苦労や努力を耳にし、改めて食と農の大切さを感じている様子だった。



## (7) 鳥取県警察への交通安全資材の寄贈について（JA共済連鳥取）

JA共済では、事業活動の積極的な取り組みを通じて、豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりに貢献している。その一環として、令和元年度交通事故対策事業費を活用した交通事故対策事業実施計画において、交通事故未然防止の一助となるべく、鳥取県警察へ交通安全資材の寄贈を行った。

本事業実施計画の下で鳥取県警察へ、平成29年度に認知症対策機材、平成30年度に反射リストバンドの交通安全資材の寄贈を行っている。今年度は、「反射エコバッグ」3,000個を寄贈した。JA共済連鳥取の交通安全資材の寄贈は、警察が交通事故防止活動の取り組みの一つに「夕暮れ時と夜間の交通事故防止」を掲げ反射材用品の使用を呼び掛けていることに呼応したものであり、今後も警察が行う交通安全教育、各種広報や運動などで活用されること共済事業の優れた価値をPRできることを期待するもの。

県警は、「お年寄りから子どもまで使用できる反射エコバッグを、交通事故防止に向けた様々な取り組みの中で有効に活用したい。」「イベント等で配布したところ、地域住民からは、『かわいいバッグです。』と評判が良いです。」と話した。

JA共済連鳥取は、引き続き警察との協力を密にして交通事故未然防止に取り組む。



### ◆「反射エコバッグ」

※黒色プリント部分はすべて反射する。